

その後どうですか？ 1年の計は元旦からと言われてはいますが、すがすがしい気持ちで今年こそはと新たな想いをしたと思います。その時から1ヶ月が過ぎようとしています、どうでしょうかその想いを忘れそうになっているのなら、再度その時の気持ちに立ち返って残り11ヶ月乗り切っていきましょう。

ボランティアの会では昨年4回の現地活動やあしなが街頭募金、月1回の東北地方の野菜販売等を行ってきました。今年は皆さんからより多くの協力を得て地元(大田区)や現地でよりよい活動をと考えています。

さて、先日のニュースで南関東での大震災(M7クラス)の起こる確率が見直され30年だったものが4年間で70%となったとありました。大きな災害を真近に感じるようになってきました。

東北の被災地の職員は2ヶ月近く昼夜間休みなく働いたと言われてはいます。そういうことが私達に近づいているともいえ、そのための心積りをしておく必要が出てきています。様々なシュミレーションを個人々人検討しておくことが肝心と思えます。

大震災が起きないように祈りつつ、準備をしていきましょう。

大田区 ~ ~ ~ ~ ~ 現地 ~ ~ ~ ~ ~ 大田区

第4次ボランティア派遣報告 (12月8日~10日)

活動場所 福島県南相馬市：鹿島西第一応急仮設住宅の①・②集会所

活動内容 『陽だまりカフェ』・地元漁師さんとの会合・八沢小学校校長との懇談会

今回は小学校校長との懇談があるため木曜日に本庁舎前を車2台で出発し高速道路を北上。高速道路内では工事が所々で行われており復旧が進んでいるように思えた。途中、飯舘村に入ると人影はまったくないが行きかう車が多かった。村役場を通過するとき白い防護服を着た一団と遭遇。道路脇で測量や放射線量を測っているようで、線量が高いのをひしひしと感じた。(夜のニュースで除染を行っていたことがわかった)。

◎「陽だまりカフェ」南相馬市の鹿島西町第一応急仮設住宅の集会



【宿泊場所の栄荘前(参加者集合写真)】

所①と②で2日間実施。 両日共、宿舎を午前8時過ぎに出発。社会福祉センター到着後、集会室へ行き準備。入り口には受付を室内ではお茶席・折り紙・釣りゲーム、喫茶の各コーナーと今回の目玉無料のフリーマーケットのコーナーを設置。(当日仮設住宅では防寒対策の工事真っ盛り)

台所ではお汁粉の準備等で忙しく動き回る。手が空いた者はビラを持って仮設住宅へ、各家庭を尋ねイベントの紹介をして参加するように働きかけた。初日は平日なので人が集まるのかとの心配があったが

意外と多くの人が集まる。また早めに集まった人のため喫茶コーナーを早めに開設してお茶やコーヒーで歓待。しばらくすると住民の方々も落ち着いて、周りとお話をしだした。

初めて会った人とも話を始めにぎやかになる。

フリーマーケット開始まで各コーナーへ。お茶席(抹茶サービス)に初めてだといいいながら説明を聞き楽しむ人。

折り紙コーナーではクリスマスリースを真剣に折る人。釣りゲームで楽しむ人。

特に何かを行いながらのふれあいは、あえてこちらから話さなくても、自分の境遇話など少しづつ出てきて自然と会話になるなど良い点があった。

また、今回のイベントは冬物の衣類がちょうどマッチしていたようである。



【持ち帰りの品物を選んでいる場面】

◎《地元漁師さん・被災された女性の方との会合》今回漁師さん、被災された女性の方(初めて参加)

6人が参加をしていただいた。(現地の人の発言)

◇震災時、津波から船を守るために海に向かって船を出した。波の高さは15m程度あったと思う、足が震えた。漁師を何十年とやっているがこんなことは初めてだ。船を出すのが遅れた人は波に呑まれた。

◇今でも、あの世との境にいるような状態。自分も津波で流されたけど生きられた、孫(4歳)も流されたが生きた、じいさんは流された。

◇今、地元で問題になっていることは津波太り(仕事がほとんどないので仮設住宅であまり動かない)で糖尿になる危険性があると皆心配している。

◇最近、除染をしてから孫にはたまに外で遊ぶことを認めてきているが、これがどのくらい続くのか? 皆さんこのような者がいるのを知って欲しい。等々の話がされた。



【クリスマスリースを完成した皆さん】



【参加された漁師さんと女性の方々のための出港準備中】



別れ際に「除染しなければ住めないから仕方ないけど、除染した放射能は海に流れてくるんだ、わたらの生活の糧の場所に。困るんだよ、でも仕方ないか。」と無念そうに話していただいたのが印象に残った。

◎《小学校校長との懇談会》 南相馬市立八沢小学校を訪問。この学校は福島第一原発から32km



(八沢小の金谷校長との懇談会)

地点。4月学校再開のときに避難区域(原発から30km以内)の学校(小学校5校)を受け入れて授業を行ったそうです。

地震と津波、その後の原発の水素爆発でほんろうされて、先生も避難しながら生徒の安否確認に非常に苦労した。地震後家族に手渡しで引き渡した児童が一人津波で亡くなったことなど話していただいた。その中で「個人情報関係で父母全員の携帯電話番号を把握していなかった」こと、「児童を家族に返すより安全なところで確保しておくべき」ことなどの反省点があったと示してくれました。

また、6校での学校運営により共通の認識を持って進めるため運営委員会を開いたり、6校の教務主任に学校別ではなく、各学年ごとの担当になってもらい、決まったことを6校にま

たがって伝えてもらったなどの運営面での苦労話をしていただいた。

震災当初、南相馬市の子ども達には放射能の危険性があるため支援物資がまったく届かず(原発事故の影響で物流が止まってしまったため)見捨てられた様な感じだった。5月半ばを過ぎると突然沢山の物資が届くようになり、そのうちもらうことが当たり前になり、慣れすぎてしまいそうな印象があったので指導が必要だと感じた。送ってくれた人の気持ちを想像し、その思いを伝える気持ちで使用するようにと繰り返し伝えている。その点と今後の放射能への対応が重要な心配事ですと話されました。

☆私達ボランティアの会は職員で構成されており、自分達で出来ることを検討しながら長期に渡って支援していこうと考えて活動しています。

☆今年の現地でのボランティア活動は暖かくなった春以降を予定しています。

【6月7日～9日にイベントとして南相馬の避難区域にあり現在避難している小学校で音楽鑑賞会及び相馬市のはまなす館でピアノコンサートを実施する計画です】

☆活動に興味ある方・入会を希望する方は連絡をお願いします。(月・水には会員が組合事務所をお借りして常駐しています。会費は無料、会則なし、会に入ると様々な情報をお送ります。)

◎連絡先 大田区職員労働組合気付 本庁舎9F(ご協力いただいでいて連絡先となっています)

大田区職員東日本大震災ボランティアの会(略称 グループ・ボラボラ 事務局長・辰見)